

浪江町の健康関連施設整備に関する提言(案)
【概要版】

浪江町健康関連施設整備検討委員会

平成30年1月31日

1. はじめに

(1) 浪江町健康関連施設整備検討委員会の目的

- ・「浪江町復興計画【第二次】」(以下「復興計画という」)には「生きがいつくりや充実した健康管理によりいきいきとした生活ができる環境を創る」という目標を掲げている。
- ・町は、そのための具体的な活動や、それを支える公共施設の整備を、これからのまちづくりの根幹をなすものであると考えており、その計画策定にあたっては、町を支える町民のご意見を踏まえて検討するべきものとして、健康関連施設整備のための委員会が組織した。
- ・本委員会では、健康関連施設の考え方や施設整備方針等の検討を重ね、提言を町に提出する。

(2) 浪江町健康関連施設整備検討委員会の検討範囲

- ・復興計画の目標を具体的に実現するための活動内容
- ・具体的活動を支える施設配置
- ・「まちづくりの核となるエリア」を中心に施設配置
- ・施設配置のスケジュール

2. 提 言

(1) 基本的考え方

・復興計画における考え方を踏まえ、具体的な活動を検討し、それを支える施設整備を進める上での基本的なコンセプトを以下のとおり集約する。

・ 基本コンセプト：心身健康な人たちであられるまちづくり

町民がそれぞれに生きがいをもった生活を営むことで、心身ともに健やかな人達であられるまちづくりを目指します。その目的を達成するため公共施設の適切な配置を進めます。

・基本コンセプトに基づきつつ、実施する具体的活動や施設整備を検討する際には浪江町の現状を踏まえ、現実的な利用者の見込みや財政状況と、政策の重要性を比較し、十分に価値判断をすべき。

・特に以下の点に留意すべき。

(イ) 関連施設の集中的整備。復興の拠点となる地域に集中的に配置

(ロ) 関連施設の共同利用。既に新設等が決定している施設との共用を進める

(ハ) 「浪江町民」による施設整備や具体的活動の推進。施設整備の具体化や管理、イベントの実施を行政だけではなく、「浪江町民」という枠組みで行うこと

(2) 具体的事業の三つの柱

- ・「健康」には多様な考え方がある。大別すれば4つの種類があるという考え方を確認
- ・単に身体運動の活動や施設ではなく、「心」と「身体」の健康という視点が重要。
- ・一方、浪江町の重要政策課題は、「浪江町で暮らし続けたい」、「浪江町に戻って生活したい」、「今は帰れなくても浪江町とつながっていたい」という町民の思いに対応することであり、いかなる政策もこれを踏まえて企画立案する必要がある。
- ・上記を踏まえ、本委員会では、浪江町の重要政策課題への対応と「心身健康な人たちであふれるまちづくり」という基本コンセプトの双方を充足させる具体的活動を提言する。
- ・特に、震災前の浪江町の特色を最大限生かし、人や町とのつながりを維持することで健康な生活を送ることができる活動を中心に据えて提言する。

(委員会で示された健康の種類)

【社会的健康】人とのつながりを中心とした活動により健康になる

(活動の例: 交流サロンに参加、祭事を企画運営、日常会話や挨拶、地域間交流)

【身体的健康】自分自身の身体の健康をマネジメントすること

(活動の例: 歩く、走る、歌う、食べる、眠る、農作業をする、家事をする)

【生物的健康】レクリエーション的活動。人それぞれの娯楽を充足させること。

(活動の例: 自然鑑賞、空気を楽しむ、のんびりする)

【精神的健康】自己実現を追及することや、何かにこだわることで充足感を得る

(活動の例: 競技大会出場、スポーツ講座、文化・工芸等の講座、農作物や花き販売、読書、料理等)

(2) 具体的事業の三つの柱

①個人の状況に応じた身体的健康の確保

●介護サービスの充実と介護予防の両立

- ・介護関連施設等を整備することによる浪江町安心して生活できる環境づくり
- ・介護関連施設と周辺施設の連携による介護予防サービスの充実

●身近な健康づくりによる体力の向上

- ・体操教室等の健康づくりプログラムを官民協力して実施

●子どもたちの運動機会の確保や子どもたちが運動でき、遊べる場の提供

●食による健康の維持・管理

- ・介護関連施設の調理場や公民館を活用し、健康維持に役立つ食の普及プログラム実施
- ・浪江町の食を集まって調理し、食べて、おしゃべりできる集いの場を定期的開催

ダンベル体操



食による健康の維持・管理(イメージ)



②個人の時間や趣味を自由に楽しむことによる心身の健康の確保

(主な取り組み)

●図書館、公民館等を便利に活用できるように整備。自分の時間を自由に活用できる空間づくり

- ・コスモス保育園を活用して図書館、公民館を一体的に整備
- ・図書館にカフェ等の仕組みを導入して、気軽に活用できるように整備
- ・地域スポーツセンター等での映画上映会開催

●自分のペースで好きな運動を楽しむ取り組み

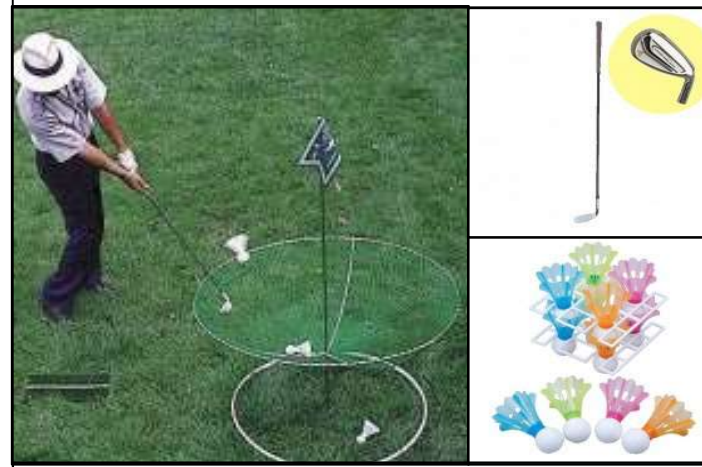
- ・歩く、走るという日常的活動が気軽にできる施設整備
- ・ターゲットバードゴルフやグラウンドゴルフのように、気軽にできる競技にとりくめる施設整備

ブックカフェ(イメージ)



【出典】arukuアンテナ ホームページ

ターゲットバードゴルフ



【出典】株式会社サンラッキー(大阪市東成区)ホームページ

③人や町とのつながりによる心身の健康の確保

●世代や居住地にかかわらず、浪江町内で自由にコミュニケーションをはかることのできる機会の提供

・介護関連施設とキッズパーク等を併設し、高齢者と子どもたちやその家族と自然にふれあえる場を形成

・浪江町で行われていたイベントの再開により、避難している方々とも再会できる楽しい時間をつくる

(浪江町で行われていたイベントの例)

- －各地区体協対抗の野球、ソフトボール、バレーボール大会
- －各地区行政区により開催されていた運動会
- －コスモスマラソン
- －県陸上協会主催10マイルロードレース
- －浜通り野球大会

・浪江町の特色をつくり、町民以外の方にも関心をもってもらうことで町内外の交流を促進する。そのため継続的に開催可能な新しいイベントを形成する

- －各イベントの再開
- －綱引き大会等の新規イベント
- －ボルダリングやアスレチックコース体験等ができる設備整備
- －バーベキューやビアガーデンなど気軽に参加できるイベントの継続的な開催
- －地域で活動している企業等によるスポーツ競技の教室

浪江町長杯
ソフトボール大会



浪江町長杯
バレーボール大会



コスモスマラソン



③人や町とのつながりによる心身の健康の確保

●ふるさとの文化や歴史などを町民が交流しながら自主的に整備する活動

- ・休校になっている学校を活用し地区毎の交流の場とする。特に、浪江小学校の教室を各地区に開放し、集会スペースや地区史料の展示施設として活用
- ・町内外の人たちに震災の経験を含めた浪江町の歴史や文化を伝え、意見交換等を行う活動等を学校の教室を活用して実施。
- ・丈六公園等における植樹やコスモス等を植える活動
- ・丈六公園を小学校の遠足の行き先として再開できるように、官民で協力して整備。

●お互いに支え合いながら事業を実施しつつ、事業の成果を評価してもらう場をつくることで、誇りをもって主体的に生きることを支援

- ・農作業をした方が生産した産品を販売することができるよう、朝市や夕市の取り組みを実施
- ・地区の自慢料理を披露する、郷土料理大会の実施等
- ・作品展の実施(十日市の際に実施していたイベントの再開)

●気軽に近隣町民との会話ができる環境づくり

- ・気軽にお茶を飲んで会話のできる場の提供
- ・近所の方とお茶を飲みながら会話をした中で出るアイデアを行政等と協力して実現できるような、風通しのよいコミュニケーション環境の実現



(3) 施設の整備方針

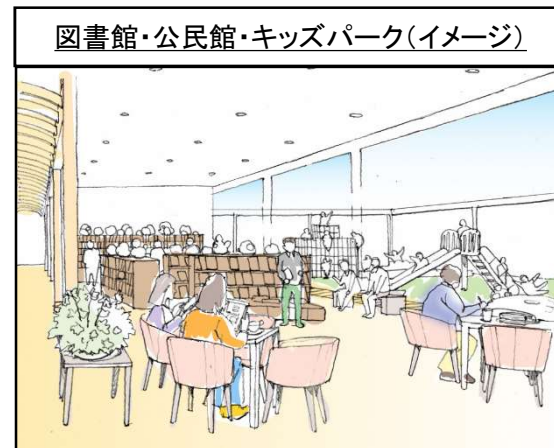
①地域スポーツセンターを中心とした総合的な施設整備

【提言】

- ・浪江町で目指す具体的なコンセプトを実現する拠点として、地域スポーツセンター周辺を整備する。
- ・ふれあいセンターなみえ運動公園を復旧・整備しつつ、介護関連施設、図書館、公民館、キッズパーク、駐車場等を一体的に整備する。
- ・一体整備によって、運営コストを削減する工夫をする。
- ・現存するふれあいセンターは荒廃が進んでいるため解体する。

【一体整備のポイント】

- ・町民のつながり確保
- ・町内に住んでいる方の健康管理ができる場の提供
- ・あらゆる世代の方がコミュニケーションをはかることができる環境
- ・個々の施設整備ではなく、一体整備による人件費、光熱水道費等のコスト抑制



①地域スポーツセンターを中心とした総合的な施設整備(個々の施設)

○ふれあいセンターなみえ運動公園

【提言】浪江町で実施されていた地区別の運動会等、震災前に町民が楽しんでいたイベントを再開できるよう、人や町とのつながりを維持する場所として整備。また、気軽に運動に取り組めるような整備の工夫をすることで、楽しく健康管理できるようにする。上記を達成するため、早急に復旧・整備に取り組む。

【具体的活動の例】

- ・各地区行政区の運動会や地区対抗のソフトボール大会
- ・ターゲットバードゴルフの実施
- ・「歩く」「走る」を快適に行う環境整備(タータン等の敷設)

○図書館／公民館

【提言】ふれあいセンターにあった、「浪江町中央公民館」及び「図書館」の機能をコスモス保育園に移転する。介護関連施設、キッズパークとの一体的整備を目指す

【具体的活動の例】

- ・図書館・公民館の基本的機能の回復(住民の娯楽充足、子どもたちが学習できる空間を再開、各種イベント開催等)
- ・図書館、公民館にカフェ等の機能を併設し、立ち寄りやすい空間にできる工夫
- ・電子書籍・雑誌を読める環境を整備する等の工夫

①地域スポーツセンターを中心とした総合的な施設整備(個々の施設)

○介護関連施設

- ・ある程度の介護がないと、安心して生活することが難しいという方のニーズに応えるため介護関連施設を整備する。
- ・地域スポーツセンター周辺に立地し、あらゆる世代の方とふれあえる状況をつくることで、より元気になっていただく環境整備。
- ・介護施設の整備は喫緊の政策的課題であることから、町と社会福祉協議会が主体者として整備事業や運営に取り組むべき。
- ・その一方で、介護に依存せず自立的に活動し、誇りをもって生きる活動を展開できる場の形成について官民連携した取り組みを強化すべき(例:野菜等を販売する朝市、夕市の取り組み、作品展の開催、郷土料理大会の実施等)。

○キッズパーク

- ・浪江町に住んでいる子どもたちが元気に遊ぶことで、ストレスを感じることなく、生活を楽しんでもらう場の整備。
- ・町営運動公園、介護関連施設、図書館、公民館と一体的に整備することで、家族ぐるみで浪江町に立ち寄りることができる仕組みを目指す

○付帯施設

- ・町民も町民以外の方も立ち寄り、町内外の人の交流を促進するための工夫が必要。カフェやドックラン等の併設をすることで、子どもたちや様々な趣味をもった方が家族で訪れることのできる空間を目指す。

②丈六公園の再生

【提言】あらゆる世代の住民の憩いの場として早急に復旧・整備する。桜の植樹やコスモス等を植えるイベントを形成する。

③浪江小学校、中央公園の活用

【提言】

- ・町民が一時的に利用することや、各地区が保存している文化財等の保管・展示スペースとして活用することで、町民の集いの場として復旧することを目指す。
- ・企業、大学、NPO等が利用できるスペースとすることも視野に入れる。

④なみえ創成小・中学校の活用

【提言】

- ・なみえ創成小・中学校のグラウンドは一般共用ができるよう制度設計する
- ・サッカーやフットサル等を住民が楽しむことに加え、子どもたちに住民が競技を教える素地になることを期待する。

⑤歩くことをサポートする簡易な修繕

【提言】

- ・コスモスマラソン、10マイルロードレースの再開／ウォーキングプロジェクトの組成
- ・道路に距離表示や消費カロリー表示等を行うことで、毎日楽しく歩くサポートをする

⑥町営幾世橋グラウンド

【提言】 利用者の自主的な管理のもとに、グラウンドゴルフ等、自由に活用する

⑦パークゴルフ場

【提言】

- ・財源や利用人口等について見極めながら、施設の建設について検討を継続すべき。
- ・当分はターゲットバードゴルフ等、町民が気軽に楽しめる競技ができるよう施設整備を進める。

【ポイント】

- ・パークゴルフ場を運営する、指導員やアドバイザーの確保が困難
- ・近隣にパークゴルフ場が存在し、集客が困難
- ・住民が楽しめる娯楽は、ターゲットバードゴルフ等、既存施設で実施できる競技がある。
- ・居住人口や町の財政運営の見通しを考えると、多大な運営予算を要する施設建設の決断をするのは時期尚早。

⑧プール関連施設

【提言】

- ・財源や利用人口等について見極めながら、施設の建設について検討を継続すべき。

【ポイント】

- ・近隣にプール関連施設が存在し、集客が困難
- ・居住人口や町の財政運営の見通しを考えると、多大な運営予算を要する施設建設の決断をするのは時期尚早。

(4) 町民の自由なアイデアを具体化するために必要な課題

①町民と行政等をつなぐ仕組み

浪江町に住む「町民」がいきいきと生活し、心身ともに健康となるための具体的なアイデアは、町民自身の自由な発想のもとに進化させていくべきもの。

たとえば、地域の集会等が出る意見や、隣近所の普段の会話の中からアイデアが生まれ、それが行政等関係者にスムーズにつながることで、具体的活動が発展的に展開されることが理想。

よって、これを実現するため、行政等関係者と町民をつなぐ機能(地域コーディネーター等)により、「町民」同士で具体的活動が展開できる工夫をしてはどうか。

②広報活動の強化

具体的活動を展開したことが、町内外のあらゆる人たちに伝わる工夫が必要。伝わることで活動参加を後押しするとともに、さらに新たなアイデアが生まれることが期待される。

よって、行政による広報活動強化に加え、町民自身で情報を発信し、広く町内外に浪江町を知っていただく活動を強化するため、ICTの活用、既存の広報媒体の活用(広報なみえ)、ビラ配りや口コミなど人のつながりによる伝達手段等、様々なツールを使った具体的方策について専門家を交えて検討を進めてはどうか。



【出典】株式会社 アーク・イメージギャラリー

【出典】静岡市 オクシズ ホームページ

(5) スケジュールと財源に関する課題

①早急な復旧・整備が必要な施設

- ・早急に復旧・整備が必要と提言されている施設(地域スポーツセンター周辺拠点(ふれあいセンターなみえ運動公園、介護関連施設、図書館、公民館、キッズパーク、付帯施設)、丈六公園、浪江小学校、中央公園等)については、国が定める「復興創生期間」の期間内(平成32年度まで)にすべての整備が完了すべき。
- ・必要な利用料徴収の制度設計について同時に検討を進めるべき。利用者負担の原則を念頭におき、バランスのとれた制度設計を目指すべき。

②財源や利用人口を見極めながら検討を続けていくべき施設

- ・パークゴルフ場、プール関連施設については、国の定める「復興創生期間」後の国、県、町の復興推進体制がある程度定まった段階で、利用人口の予測や必要財源等を踏まえた上で整備の是非を判断してはどうか。そのため、国、県に対しては、パークゴルフ場、プール関連施設等、公共施設の整備が可能な予算を「復興創生期間」後も引き続き確保するよう要望を継続すべき。

(5) スケジュールと財源に関する課題

③具体的活動の実施に関するスケジュール感

・介護関連サービス

現在、浪江町内に二か所のサポートセンターを立ち上げており、通所介護・訪問介護関連事業、地域サロン、総合相談等のサービスを展開している。これらのサービスは継続しつつ、新設する介護関連施設と相互に連携し、住民の多様なニーズに即応できる体制を構築すべき。

また、介護関連施設の利用が可能としている近隣市町村と連携し、ケアマネージャー等を通じて連絡体制を引き続き整備すべき。

・各種イベント等

アイデアを収集しつつ、「町民」の立場で可能なことから随時実行すべき。

・地域コーディネーター

町民のアイデアが新たなイベント等の創意工夫を生むことから、アイデアを収集することが期待されるコーディネーター事業は速やかに実施されることが望ましい。

・広報活動強化

実施されるイベントが速やかに広報され、町内外の方々に伝わる体制は町民のアイデア収集と表裏一体であり、専門家等との戦略研究等は早急に着手すべき。

サポートセンター事業(介護予防)



(6) フォローアップの枠組み

・本委員会のメンバーを中心に、まちづくりに協力していただける町民と、定期的に本報告書のフォローアップができる場をつくり、「浪江町民」が協働して事業の実現をはかることを目指す。

整備スケジュールのイメージ

	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度以降
地域スポーツセンター拠点						
町営ふれあいセンター 浪江運動公園	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
介護関連施設	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
図書館・公民館	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
キッズパーク	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
付帯設備	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
丈六公園	財源協議	→ 調査・設計	整備開始・完了	→ 運用開始	→	
浪江小学校・中央公園	財源協議	→ 調査・設計	整備開始	→ 整備完了	運用開始	→
なみえ創成小・中学校	整備完了	運用開始	→			
町営幾世橋グラウンド		運用を定め 適宜開放	→			
パークゴルフ場		検討継続	→	整備の是非 判断		
プール関連施設		検討継続	→	整備の是非 判断		

具体的活動のスケジュールイメージ

	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度以降
介護サービスの継続・改善	浪江町一樹サポートセンター ・通所介護関連事業 ・地域サロン・総合相談 等		→	新設される介護関連施設との連携によるサービス提供・改善		
	サンシャインサポートセンター ・訪問介護関連事業 ・総合相談 等					
	近隣市町村の介護施設利用		→			
各種イベント形成	随時実施 →					
地域コーディネーター	財源協議 →	活動開始 →				
広報活動強化	財源協議 →	強化プラン 検討・実行 →				